

# 紫竹山コミ協 会報 むらさき



第11号

発行日 平成31年4月1日  
発行 紫竹山校区  
コミュニティ協議会

## 編集委員あいさつ

会報11号の発行を迎えて

紫竹山校区コミュニティ協議会

編集員長 中村 昌雄

今号は、駅南コミセンの改装に伴う  
休館により、健康福祉部会の活動も休  
止となり、記事を集めることが難しい  
状態でした。防災に関する特集号とし  
ました。

## 緊急時の避難場所を 決めておきましょう

指定されている避難場所には災害時  
に、食料・飲料水・毛布などが届けら  
れます。緊急時にはどこへ避難する  
かを家族で話し合っておきましょう。



指定避難場所は次の三カ所のみです。

- 紫竹山小学校
- 駅南コミュニティセンター
- 北越高等学校
- テクノスクール（津波発生時一時避難場所）

## 各自治会の活動状況

米山3丁目駅南ハイツ自治会

自治会長 中村 哲

当自治会は昭和54年に駅南ハイツが  
竣工時に設立した団体です。

現在87世帯が居住しており自治会役  
員5名でそれぞれ10階建ての2フロア  
ずつ班長として担当しています。他に  
子供会、クリーンにいがた推進員の役  
員がいます。

一昨年に防災会も立ち上げて年一  
回、防災訓練をしています。

また春、秋の共同清掃、毎年行う懇  
親会、毎月のお茶の間会等、居住者同  
志の交流も盛んです。駅南ではマン  
ションとして老舗になり今年で竣工40  
年を迎えます。若い住民も増える一方、  
居住者の年齢も上り、一人住まいの方  
も増えてきました。今後も民生委員と  
協力して皆さんを見守っていきたく  
思います。



マンション敷地の清掃作業



防災訓練



管理組合、自治会の会議場所

10/9~10

# 「三協防災研修旅行

前橋・東京有明・他

米山第四自治会

防災士 濱田 宏幸

## 防災意識を子どもたちへ 防災研修旅行感想

群馬県前橋市防災センターでは「近年当地では災害が少ない為か、災害への備えについて聞いて回ってもなかなか聞き入れてもらえない」との現状をお聞きしました。誰しも自分の身に不幸が起きないことを願っており、災害についても楽観視したがる傾向に有ります。最近災害は無いから今後も大丈夫だろうと思ひ込みたい気持ちはよく理解でき、ある意味、とても正直な方々とも言えます。が、西日本豪雨や北海道地震のTV報道で、「ここに永く住んでいるが初めての経験で、まさかこんなことになる」と被災された方が口々に言っておられました。災害大国に住んでいる事を我々が常に頭の隅に置いておかなければならないのかもしれないですね。

さて、そこの煙体験では、室内の床から70cmにセンサーがあり、それより身体を低くして移動しなければ警報が鳴るのですが、我々一同は警報が鳴りつばなし。本番であれば全員アウトです。何より火事を出さないこと、煙が回らないように逃げる事、そのために煙感知器や消火器の設置、正しい知識の習得が非常に重要であることを感じました。

東京都防災施設のそなエリア東京では、直下型地震について幾つかの方法で学びました。中でもアニメが、主人公の家族構成が我が家に似ていたせいか、リアルさが伝わってきて最後は心が締め付けられる思いで泣きそうでした。

大都市である故に万が一の時には、大規模火災、避難行動や避難所運営の困難といった事態は避けられず、想像を絶する二次被害が生じるのだらう、とバス車中からのビル群の眺めや、家々が寸分の隙間も無くぎっしり立ち並ぶ下町を歩いてみて思いました。

何処にいても自分の身は自分で守る、その意識を将来有る子どもたちに伝えることも地域の役目の一つなのかな、と感じた旅でした。

米山第四自治会

青山 斉

## 防災研修・視察旅行から

今回の研修では、群馬県の前橋市防災センターで、火災に対する対処の仕方を、また、東京の「そなエリア東京」では、直下地震が発生した時の対処の仕方学ぶことができました。

火災は、発生の初期の段階では消火は可能であるが……命を守るためには逃げるのが優先されます。火災時の煙の流れの速さは1秒間に3〜5mと言われ、上へ上へと流れます。したがって、避難の際はできるだけ低い姿勢で下へ下がが正解のようです。

地震の発生では、建物の中の場合は、最初の揺れで自分の身を守ることができたならば次に建物の出口（玄関など）に向かうのがベストとのことでした。

昔から災害の恐ろしさは、地震・雷・火事……と言われていました。地震は、揺れのほかに津波や山崩れ・火災などを伴います。雷は、台風の時など発生しやすい、その台風は水害・強風・土砂災害などを伴います。それぞれが、私たちの命を奪ったり、生活環境を簡単に破壊してしまいます。

災害は忘れたころにやってくるという、私たちの心に油断が生じたときに大きな被害を生んでいます。そこで私たちができることは、自然に対して油断を見せないように、普段から、避難所を確保しておく、水・食料・懐中電灯・電池・ローソクなどを確保しておく、家族と連絡を取り合う方法を決めておく、などの必要があるのではないのでしょうか。

何はともあれ、災害が発生したら、「自分の力で自分を助ける」を第一に考え行動したいものです。



米山第五自治会

副会長 小菅 文定

## 防災研修・視察旅行の感想

秋の晴れ間の10月9日・10日の2泊2日で、視察研修に参加したので、その感想を以下に記述します。

①前橋市消防防災センター

消防署では超が就く経験が豊富な説明員のお話を拝聴しました。その内容は、自身の過去の色々な事例を、実体験や体験を基に、巧みな話術で分かり易い説明や解説をして貰いました。\*土地柄（上州の空っ風）季節による焚火の不始末からの延焼が多発する事

\*自身が命を失うような状況の時、消防作業の用具の、斧、を持っていた事で無事脱出できた事

\*群馬県は地震災害が無いので、住民が防災意識を高めるのに苦労している事

\*その他多くの事例は割愛させて頂きましたが、大変参考になりました。

②東京臨海広域防災公園内、そなエリア東京防災体験学習施設

地震後の、がれきの街のジオラマセット（音響照明・映像）の中を、タブレット端末を使い、クイズ形式で、注意事項を確認しながら避難所へ順次移動する。

この時色々の場面での判断要素が設けられ、その設問に答えながら進んで無事脱出する体験をしました。臨場感があり面白い体験でした。

\*災害時に政府の指示を、具体的活動を指示する直轄する為の緊急災害現地対策本部の、オペレーションルームを見学しました。この施設は映画のシンゴジラの撮影にも使用されたとの事でした。

\*東京直下型地震、マグニチュード8.0 72時間のアニメーション映画を鑑賞しました。

今回の経験を、今後の町内の防災活動の色々の場面で、活用して行きたいと思っています。

7/31

# 新潟市防火連合協議会 視察研修旅行に参加して

米山第四自治会

防災会会長 横木 益次

新潟市防火連合協議会の平成30年度の研修視察会が、7月31日に行われた。

研修先は、富山県広域消防防災センター（四季防災館）でした。

視察団長は、松浜地区会長 神田征朝氏。参加人数は総勢26名でした。

朝、8時30分 中央区撞木の新潟市消防局を出発して、夕方6時30分に消防局に到着した日帰りの研修会でした。

館内の施設は、①地震体験、②初期消火体験、③煙体験、④風雨災害体験など、実際の災害体験が出来る施設でした。実際に体験してみると、人は自然にはとても勝てないことが実感でき、災害に対して、日頃から準備をしておく事の大切さを感じる研修でした。

この施設は、見学無料で、この日は、夏休み中のせいか親子連れの体験者が4〜5組いました。地元新潟にもこんな色々な災害の体験が出来る施設が有ったら良いなと思いました。





## 11/11 防災訓練 (防災講習会)

場所…紫竹山小学校  
日時…平成30年11月11日 8時30分～12時  
参加者…約130人

今回は、講師に防災士の米倉正樹氏をお招きして、「駅南地区に予想される水害について」と題して、水害に焦点を当てた防災講習会となりました。その他に、アルファ化米炊き出し訓練、災害DVD上映、非常持ち出し訓練について等の説明が行われました。

今回は、防災防犯部会の濱田部会長最初の仕事であり、張切って、運営スタッフの事前会議を行い、当日の講習会に備えました。また、参加者に手渡しする資料やアルファ米、水等の袋詰め事前準備も自治会の協力スタッフが、開演に備えました。受付等イベントの初期は、順調に進んで行きました。ただ、途中で何かのアラームが鳴り響き、止めることができず、苦労しました。PTAの役員さんがいらっしやっただので、最終的にはアラームを停止することができ、ほっとしました。小学校の



先生方との連絡や協力をもう少し明確にすべきだったと感じました。来年以降には小中学校の生徒さんも巻き込んだ、防災訓練としたり、紫竹山小学校以外の場所での訓練も必要となってくると思います。自治会の自主防災会も徐々に設立され、新潟市のコミ協の中では遅れていた地域ではありました。徐々に追いついてきたと感じられる一日でした。(中村)



アルファ化米 試食



講習会の風景

## 2/21 応急処置研修会

場所…駅南コミセン2階ホール  
日時…平成31年2月21日 14時～16時  
参加者…約50人

紫竹山コミ協の自治会会員に向けた研修として実施され、終了後も希望者による親睦会が実施されました。

今回は、日本赤十字社新潟県支部の救急法指導員の後藤康夫氏が、新聞紙簡易スリッパの作り方、防災頭巾の作り方、ふるしきを使ったリュックサックの作り方、レジ袋やパンストを使った応急処置(三角巾の代わり)等の実習が行われました。多くの方が、ふるしきによる頭巾やリュックサック、新聞紙を使ったスリッパを作る実習に励んでいました。

特に災害時は緊急事態の時に、使えるものとして、レジ袋やパンストを使った簡易応急処置は、使えると思えました。なぜなら、三角巾を使っても応急処置は、何度も実習をこなさないと覚えることが難しいです。配布された資料を見て何度も実習して、体に染み付かせないと災害時には役に立たないと思えました。ま



た、来年以降も実施していかなければ自助、共助にはつながらないと思います。(中村)



リュックサックの作り方



配布された資料



レジ袋を使った応急処置

## 鑑西第一自治会 防災会

平成30年9月9日(日)、駅南コミセン大ホールで実施の避難訓練のまとめです。「自治会だより」より転記)

皆様の世帯の防災力向上と災害への備えに役立て下さい。また防災会は、情報収集と伝達方法、災害時の対応力、支援体制の整備など、安心できる街づくりを目指します。

訓練参加の総人数は、109人うち中学生以下参加は18人、参加世帯数は65世帯でした。

【新潟市中央区役所・総務課 安心安全グループ 主査 長谷川 様の講和概要】

- プロジェクトにより、各地の避難所での生活実態などが、紹介された。
1. 災害発生の日には、廊下や玄関フロアに避難者があふれるなどの混雑状況
  2. 避難所開設と地域住民の運営の状況 (自治会の役割など)



3. 地震による津波の高さや到達時間のハザードマップ

【会長の総評：避難訓練実施の感謝があり、次の周知事項がありました】  
当自治会の避難場所は、「紫竹山小学校」で、体育館の出入口に受付が設置される

津波の場合は、テクノスクール玄関から入り、夜間は防災会役員が扉を開けます

避難準備の場合、駅南コミュニティセンターに一時避難は可能ですが、最終は紫竹山小学校となる

【非常持出品及び備蓄状況のアンケート結果】

- ・避難用具の保有率：懐中電灯98%、携帯ラジオ71%、警報59%、予備電池83%
- ・生活用品の保有率：携帯カイロ65%、携帯トイレ8%、給水タンク38%、カセットコンロ60%
- ・非常食品の備蓄率：アルファ米等46%、乾パン等35%、缶詰88%、飲料水3日分54%



## 社会福祉協議会 お茶の間スタッフボランティア講座に参加して

場所：ほんぼーと 研修室  
日時：平成31年1月18日 13時～16時  
参加者：20人

みなみ地域社協、中央区社協の主催、地域包括センター宮浦東新潟の協力で、実施されました。私もマンションのスタッフ代表として参加しました。お顔を見かけた方々もあり、ごあいさつをされた「みなみ地域社協連絡会」の伊藤栄夫会長と中央区社協のスタッフの方以外は、女性の参加者ばかりでした。20名中17対3でした。純然たる参加者では、私一人でした。男性は何をしている？との思いでした。お茶の間スタッフは、女性の仕事のように思っていないませんか？ 男性も積極的に参加を歓迎します。

研修の内容は、いつもお世話になっている当地区の包括支援センター滝澤さんの講話「支えあいの仕組みづくり」と地域のお茶の間、活動報告「笹口のお茶の間の活動について」、講話「認知症サポーター養成講座」、演習「お茶の間で使えて脳トレにもなる折り紙」、演習「楽しく会話スキルを学ぶワーク」、説明「みなみ地域のお茶の間活動について」、紹介「ボランティア活動の注意点と保険について」と豊富なメニューで行われました。ワークシヨップ的な部分もあり、結構疲れました。当マンションのお茶の間でも参考になると思います。

(中村)

## 編集後記

今回は、記事の不足に苦しみました。地域における活動や過去の歴史に関するもの、写真等も含み投稿をお願いいたします。特に鑑西第一にある「諏訪神社」について、情報がありましたら、編集部へご連絡ください。

(中村)



配布された資料



講話風景